

アメリカにおけるリベラルアーツ教育とは

吉川りさ

1 はじめに

本稿は、アメリカにおけるリベラルアーツ教育について概観することを目的とする。まず、総合大学とリベラルアーツ大学の同異点を明らかにする。そして、リベラルアーツ大学の1例としてアマースト大学を取り上げ、その教育方法を参考資料をもとにまとめる。

2 アメリカの総合大学とリベラルアーツ大学

日本と同様に、アメリカにおいても大学の種類は多様にあるが、本節では、四年制大学に焦点を当てて検討を進めていく。その中でも本稿ではとりわけ、私立や州立の総合大学と、リベラルアーツカレッジ（LAC）に大別することとする。両者の同異点を表した表1の説明に移る前に、LACについての補足説明をまず行いたい。

表1. 総合大学とリベラルアーツカレッジの比較

	総合大学（私立・州立）	リベラルアーツカレッジ（LAC）
立地	さまざま	地方都市（自然豊かな環境）
大学院	有	ほぼ無
教育の焦点	研究、大学院教育	学部学生への教育
大学規模	大	小（500～3000名程）
授業体系	TAによる授業有、大人数授業	教員による指導、少人数授業
指導体系	サポートはLACに劣る	学生一人ひとりへの日常生活・学習・進路相談サポート
学生生活	さまざま	大半が全寮制（人とのつながりを重視）
学習	ある分野に関する深い専門性の追求	幅広い学問を通じた知識や教養の獲得

LACの始まりは、キリスト教の教会が、聖職者（社会のリーダー）の育成のために設立したことによる。人文科学や自然科学、社会科学、形式科学を扱い、生涯にわたって学び続けるために必要な力を育成することに注力した。そのような考えが現在のLACに伝承されており、四年間の学生生活において、論理的な思考力や作文力、コミュニケーション力や問題解決力などの育成を目指している。

このような背景を踏まえた上で、表1の説明を行う。総合大学とLACの顕著な違いは、大学院設置の有無や教育の焦点であると考えられる。総合大学では、大学院を設置しているため、大学院教育を見据えた教育が中心となり、教員も教育のみでなく研究にも注力している。一方、LACのほとんどは大学院を設置しておらず、教員は学部学生の教育や進路相談支援は無論、日常生活に関する支援も個別に手厚く行っている。大多数の学生を抱える総合大学とは異なり、LACは大学規模が小さく、少人数授業を徹底し、教員と学生、学生間の関わりを重視している点は、表に示した大学の立地や全寮制の面からも納得できよう。少人数教育における補足として、LACにおける少人数教育は、ディスカッションを通じた思考力の育成に起因しており、そのため、授業中の発言回数はもちろん、発言の内容が成績に直結することも珍しくはないようである。また、少人数教育であるがゆえに、学生1人あたりの教育経費が高くなり、その結果として学費も高くはなるが、OBの寄付や財団からの資金、奨学金の給付などが豊富であるため、学生への経済的な配慮が行われている。本節の終わりとして特記すべき点は、ハーバード大学やコロンビア大学、マサチューセッツ工科大学などといった総合大学においても、リベラルアーツ教育は重視されているということである。現在のハーバード大学は総合大学であるものの、はじまりはLACであったという背景がある。

3 LACのSTEM専攻プログラム

LACでは、総合大学とは異なり、幅広い学問を通して知識や教養を獲得することが主の目的であるものの、総合大学のように、ある分野に特化し専門性の高い知識や技術を身につけるプログラムも提供している。たとえば、Smith collegeやBryn Mawr Collegeなどが導入するScience, Technology, Engineering, Mathematics (STEM) 専攻プログラムは、理工系教育に特化したプログラムであり、1年次から実験や実技に取り組むことができる。少人数授業の利点を生かし、知識の詰め込みだけでなく少人数でのディスカッションやグループワークなどを通して理解を深められる点が特徴であり、総合大学との相違点である。1年次からこのような経験を蓄積することができるLACの学生は、即戦力が高いという認識を持たれやすくなり、就職に有利に働く面も多いといわれている。さらに、インターンシップや留学といった学内における活動も総合大学の学生よりも相対的に多い点も、即戦力が高いと認識される理由につながると考えられる。

4 LACの一例として：アマースト大学 (Amherst College)

本節では、LACを代表するアマースト大学における教育方法を概観する。アマースト大学は、

1821年に創立したマサチューセッツ州で三番目に古い大学であり、入学選抜の難易度が高いトップレベルのLACの一つである。基本的な情報は前述したLACの特徴と一致しており、少人数教育を徹底している。アマーフト大学は五大学コンソーシアムのひとつであり、他四大学で開講される授業を無料で受講できるほか、図書館の蔵書にもアクセス可能となっている。アマーフト大学のホームページ (<https://www.amherst.edu/>)を確認すると、専攻数は40、科目数は850以上あり、学生は自主的に科目を選んでカリキュラムをつくりあげるという「オープンカリキュラム」が用いられている。そのため、必修科目や一般教養科目は設けられておらず、ダブルディグリーも可能である。

アマーフト大学における教育方法に関しては、留学体験記（押本，2008；児玉，2010；物部，2011）が大変参考となる。一つの特徴は、読む・書く量が膨大である点であろう。狙いとしては、学生自身が考え、それを自分の言葉で論理的に説明する批判的思考力の育成が考えられる。通説の再検討や、新たな視点を追加するといった取り組みを授業内で繰り返し行わせることで、柔軟的なものの考え方を養うことを目的としていると思われる。また、Writing Center や Counseling Center のように学習面のみならず精神面のサポートも完備し、勉学を支える環境づくりも行っているようである。

5 終わりに

本稿は、アメリカのリベラルアーツ教育について概観することを目的とした。そのため、リベラルアーツカレッジ（LAC）と同じ四年制大学である総合大学の比較を通して、LACの特徴を見出した。また、LACの一例としてアマーフト大学の教育方法の概観を通して、学生自らが考える環境が豊富であることを確認した。本稿はアメリカに着目したが、他国の実践方法を参考にすることは、日本におけるリベラルアーツ教育を捉える上で有効な方法であろう。

参考文献

- 押本年真（2008）「シンポジウムアーマストから私が学んだもの：座談会、藤倉皓一郎、宮川成雄、斎藤文彦（その一）」『キリスト教社会問題研究』57, 267-286.
- 児玉 実英（2010）「リベラルアーツの理念と現実 - アーマスト大学での二年をふりかえって（アーマスト大学留学生たちの手記）」『キリスト教社会問題研究』59, 319-331.
- 物部 ひろみ（2011）「アーマスト大学留学生たちの手記（2）アーマスト大学留学回想記」『キリスト教社会問題研究』60, 113-126.